

# 心地の巻

## 心地の巻

### 目次

無量光	一
佛性衆生心地	二
彌陀の威神力と不可思議功德	四
眞の生命	四
道徳進歩	六
生命	七
道	八
本 迹	一〇
旧約と新約	一〇
如來の妻体	一三
婦 命	一七
付 録	
御消息(新公表)	一一二〇

## 無量光

十方三世一切の、法報應の本地なる、  
獨尊統攝歸趣に在す、無量尊に歸命せん、

無量光は如來の本體、天地萬物の本源にして、一切萬法此を體とせざるはなし。若し佛身として云はゞ十方三世一切諸佛の法報應及び菩薩等の本地本佛なり。佛教は汎神教なれば一切衆生は悉く本如來の分子なれば、佛性本來具備するが故にまた佛と成り得らるゝなり。衆生終には十方佛土に在す諸佛と同じく、無上の覺を得て、一切衆生を度することを得るなりと。衆生が神の性を具してゐるから、終に神と同じ位に成ることを得るといふ教が汎神教また萬有神教と云ふ。佛教は汎神教であるから、衆生は終には佛と成り得らるゝと説く。汎神教に衆生各自が佛と成る外に、一切諸佛に超えて諸佛を統一する唯一の神を立て而も一切衆生が佛と成りうるものとすると、先佛

### 2

後佛はあれども同一の佛この外に超然として而も一切を統一する神を立てざるとの別あり。佛教の内に甲に屬するもの多し。假令古佛を立つれども蓋は先佛の模範を垂れて後輩を提撕して其佛性を惹起せしむるに過ぎずと。

今は一の超然一神の萬有神教である故に、一切衆生の本源も無量光にして、また斯の靈光に攝化せられて成佛す。十方三世諸佛も皆之を統一し歸趣する所の無量光に歸依信順して終局に佛果を得る故に、楞伽には彌陀十方諸佛の本地と説き、般舟には三世諸佛皆念彌陀三昧に依つて正覺を成すと。

故に佛教の他門に於て先佛を唯教主として仰ぐのと、斯教に於て彌陀を本佛と崇むるとは同一にあらず。

天台も彌陀を以て法門の主となせるも皆此義である。

## 佛性衆生心地

大宇宙全體を一大法身とし之を如來藏心と曰ひ、亦如來心と云ふ。其分子たる個人心を衆生心と爲す。衆生心は小法身として佛性を具す。是大法身の分子として造物主たると共にまた佛と成り得らるべき性を具す。故に一切衆生悉有佛性と説き給へり。

衆生心の根底は是佛性なりと爲す。是佛陀とならるべき性伏藏す是心地なり。斯心は土地の一切草木等を生長せしむる能ある如く、土地は能く荆棘乃至香草稻麥等の一切の植物を發生し長養す。いかに荒蕪せる土地にも種々の雜草繁茂す。荆棘蔓延するが如し。是土地の鹿惡なるに非ず土地沃豊なるに隨つて植物繁茂す。如何なる土地も開拓し耕耘し好種を播布するに非ざれば自然に蔓延する草は雜草なり。衆生の心地も亦然り。本一大法身の分子たる心地佛性を根底と爲すと雖開發し修養して、靈性を顯動せしめざれば我見我慢我愛等より我即ち氣儘の性のみ發達して、つひに墮落す。煩惱の繁きは心地の鹿惡なるに非ず、根本は靈性なれども天然に放縱にして唯煩惱のみ繁茂す。恰も沃地に雜草荆棘蔓延する如し。煩惱雜惡の衆生心地を除きて佛種子を播

### 3

いて佛果聖道を得べき心地あることなし。寔に是衆生心は一大法身の分子たる佛性を根底と爲す。

### 彌陀の威神力と不可思議功德

宇宙間の萬有は悉く絶待不思議者から顯現してゐる。萬有の内存の一切知と一切能とにより常恒不斷に萬物を建設してをる。之を世に造化の妙用と云ふ。之の萬有を建設する理性を法性の理ともまた眞如とも名づけてをる。眞如が隨縁して萬物と成る。若し眞如を離れては一として行はるゝ理はない。眞如とは學語なので、之を宗教的表語に云はゞ法身佛と云ふ。宇宙萬有は法身無量壽佛の一切知と能との働に由つて行はれてをる。

### 眞の生命

學の要する所は宇宙を一貫する道即ち不變の法則を恰も鏡面に物を映す如く、道の本體其物に至つては全く（ ）理的自覺に任すべきのみ。

如何に生き如何に死し如何に進み如何に退くべきかは知識にあらず他人に非ず寔に是我理性の光のみ。

「人若し新に生れずば神の國に入るに能はず」是靈的自覺に本づける新なる生存の甦したるを云ふ。人こゝに眞の幸福をう。此幸福の人生を悟るものは永遠の生命を受くべし。

ト曰く生命とは活くるの謂なり。即ち永遠に存在するものならざる可からず。生れて死する肉的生命の如きは豈之を生命と稱するを得んや。生死あるものは神よりの生命に非ず。時間空間に規定せらるゝものは生命に非ず。眞個の生命は唯單に存在す始もなく終もなし、何ぞ死生あらんや。

人生の不幸は毫も我個人性の存在より生ぜず。唯物慾の満足を以て人生の幸福なり

との誤解より生ず。唯理性を以て物慾を制し理性的自覺の生命の下に個人的肉體の生命を服従せしむるに在り。之を沒我と云ひ大悟と云ひ靈的生存と云ふ。

### 道徳進歩

宗教道徳は個人及社會的理想と無限に進歩し道徳生活は永久に向上し天國を顯すに至ると信す。

善惡共に人文と共に進歩す。

道徳則は意志の規定にして善惡の標準を與ふるものなり。道徳法は神の指示する所に隨つて（キリスト）。或は絶對精神の現れたるもの（絶對）。又天理 儒教。自然の法則。或は經驗的社會的に形成せられたるもの等、其法則の成立の見解を異にせり。其遵奉する態度も異なる。敬虔的信仰を以て守り又は絶對的哲學的信仰を以て守る。天人合一の思想を以て或は自然と相連り合理的態度を以て社會的日當の事とし任意の約束の如く想ふて之を守る等。

次に道徳法は目的法にして當爲當守の義務的、自由意志之を爲すは必ずありて認めて法則と云ふ。道徳は他人より強いるに非ず内に自ら感じてまた何等かの目的理想を豫想して性格動機意向によりて是非當然と解し得るも當人が目的による自由の自己活動と意識するに妨なきなり。故に道徳法は目的法なりと云ふ。自律とは此意味なり。

### 生命

ト曰く、人に二個生命。一は肉と共に生れ共に終る。之を動物的生命。一は自覺する時初めて生るべき理性的意識（心の生命としての靈的生命）。一は動物共河自然の一は人類已上存在超自然。生命靈性覺醒により自己の存在を意識し始めて生命を自覺す前の生命は夢中の幻像、小兒は已に肉の生命發すまた自の存在を意識す。

靈生命は誕生の月日を知らず、また肉の如く父母によらず。靈の誕生は五十歳にし

て自覺するもあり。靈生命は或他の靈的存在との連絡交通より生ずる賜なり。其物は數千萬年前昔よりの存在なり。然るに人は時間空間に規定せらるゝ動物的生命を以て唯一の生命と誤解する結果自ら覺醒の時駭然として迷夢を掃ひ最早從來の生涯を繼續すること能はず。此の煩悶苦闘危機失望落膽極るは一に肉生が靈性と混合したる結果從來の生ける我は實は夢幻態に過ぎず自己の立場を失し何ぞ失望せざるを得ん。譬へば一の婦人あり彼女性の性質にして無智一朝にして懷妊せり身體異狀にして健康頗る其度を失す。彼女我病を得たりと憂惱措く所を知らず。焉んぞ闔らん是人の妻たる本分を完うしたる天職、最も喜ぶべき慶事なるを。

靈的生命を以て人生と覺る時何の矛盾あるなく煩悶なし。靈的生命を以て肉的生命を支配する是人生の眞意なり。

### 道

ト曰く理性とは「道」即ち宇宙の道理を認識するの能なり。人理性の覺醒に依らずば、宇宙の道理に従ひて新なる生活を開始すること能はず。道とは「始に道あり道は神と共に在り道は即ち神なり」道は宇宙の原則萬物之より生じ其の中にあり。道は定義を附くべきにあらず形容すべきにあらず、唯覺めたる意識の即ち自性理法自覺の存する所以、道は萬物を結合する連鎖なり。人々共通の理。道は人の依つて生存完成する所以の法則。一切生物之に則りて生存し成熟し、天體之に依つて運動して道となす宇宙を支配する法則即ち吾人の（ ）る同一法則。道は宇宙を一貫し萬物に普及す。此道明かに我にあり之に依つて活きる法則なり。外界の法則は吾人合する能はず、内界の法則は自由なり。我は道そのものゝ發現なればなり。道即ち自己を自覺するなり吾人は自己に由る生命を自覺し完成し、肉をして理性我に服従せしむ。人生の法則法則を成就して眞の幸福と圓滿なる自由に達す。是吾人唯一の生命。

(迷惑)學文の爲に徒らに事物の皮相に走り幻夢を捉へて妄に本體とし、彼等は萬事

を知るも眞實の自己を悟らず。眞の知は人生を指導すべき理法その物を自覺す。之賦自覺の外なし。

### 本 迹

如來と佛陀とは本來一體の同一の性、如來を離れて佛陀なく、佛陀の心靈を外にして如來を知ること能はず。如來と佛陀とは本迹不二の關係なり。

久遠質成の如來は迷没の衆生を救靈せん爲に迹を人類に垂れて攝化の益を施す。

如來は天の月にして佛陀は水中の月に例ふ。水中に月は不一不異の關係を以て顯現す。然れども水中の月は竟に天月に歸す。

### 舊約と新約

世界一切の人類を救済し攝取する大宗教は人類の起原と共に起原したるものならん。然して生物の進化と共に人の精神生活の宗教史に於てもまた人文の歴史と共に宗教心も及び教理も幼稚の宗教より漸次に高等なる宗教に進化したることは否認すべからず。

我佛教も亦印度古代の宗教より系統的に進み來りし系統と階級によらずして發元したるものに非ず。

佛陀が阿羅々等の數論師につきて學びたるもそれらの宗教は非想等の客觀に目的を置いて客體が主觀的なるか客觀的なるかまた確定し難きが如し。

予は淨土教は大乗經として佛說なるや非佛說なるやまた須摩提極樂は去此不遠また西方彼岸何れなりやも關しない。

(唯予は斯の金文が宗教的經驗の上に自己靈感として)

斯經が何の時代何の人によりて編せられたるかまた原始佛教と何なる關係を有するかの議論にあらず。

歴史と若しくは宗義學上の問題にあらず。人生問題に對し宗教上の實驗に對して二千有餘年の今日、靈光灼爛として吾人の心靈に輝き照す心靈の實驗に於て毫も異ることなきが如きに至つては吾人は此眞理を疑はんと欲すと雖能はざるなり。

宗教的靈的實驗の外に前後に列する所の抒事詩の如き神話の如き( )の如きは敢て深意を以て之を解せず。然るに世の宗教を説くもの全く自己の内的靈驗に訴へず唯に言語文字の上のみにのみ。

若しは聖善導聖法然の宗教的内容の如きは斯の教祖の靈的内容と毫も異なることなきにあらん。

若し諸君は自己の信仰的内容を此金文の間に如何に一致するかまた相違の在るかを比較し而して自己の心情と靈性とに相應するかを判斷すべし。若しかく聖經を如實に取扱ふに非ざれば聖典何の龜鑑とならん。

## 如來の實體

哲學に謂ゆる宇宙の實體が即ち如來の實體である。自然界と心靈界、即ち生死界と涅槃界と其現象の上には相反對なるも其が統一的存在なる實體は同一でなくてはならぬ。哲學の實體に就いては古來種々の學說あり。或は實在を意味する說あり。或は事物の形式を抽象して本質を實體と立つる說あり。又普通の屬性や偶然と區別して其實質を實體とするものあり。また實體とは現象の諸の性質の奥に在る本體にして是萬有の原因であると云ふ說あり。神學にては實體を以て神性を表はし人格的差別を超絶せるものとす。プラトンはイデアが萬物の實體にして縁起の原因であるとす。デカルトは他に依らずして自ら存在するものを實體と名づく。即ち神であると。スピノザは自身に依つて存在無限永久必然性なる實體即ち神であると。ライブニッツは實體は活動し得る存在即ち力であると。カントは實體は經驗より來らず純粹概念であり又存

在の最後の主體なりと。ヘーゲルは絶對的にして單純なる否定態であると。又偶性の總體を實體とす。また實體は雜多の諸の性質を總合せる基礎であると。また實體とは現象の種々に變化するものに反して内的不變性であると云ふ。

今佛教哲學に云ふ所の眞如は自己は本不變性であると共に常恒の活動より物心依正の一切の現象と變現するを隨縁となづけ、種々に變化するも其本性は不變、海水と波の喩の如し。隨縁にして不變、不變にして隨縁なりと。

實體論に古來物心二元論あり。又唯心論唯物論唯理論あり。二元論者は今現に現象の萬物に有形の物質と無形の心質とある故に其本因なる實體に於ても物と心との二元なかるべからずと云ふ。唯物論者の主張する處によれば現象には物質と心質と分かるれども宇宙を構造する本質は物質の原子また電子が在りて永遠不滅にして其勢力は常恒存在なのでそが自然律によりて萬物を造る人間の精神の如きも腦髓神經を構造する細胞の作用に過ぎぬ。故に精神なるものは物質の副産物に外ならぬ、永恒の實在は物質の原子であると説く。唯心論即ち觀念論の説によれば心生すれば一切の法生じ心滅すれば一切の法滅す宇宙萬象は即ち天地萬物の色相は唯心の變現に外ならずと主張す。また唯理論者あり謂く物質がいかに精妙を極むるも物質より精神生ずる理ありとは想はれぬ。又心質より物質に變現するとも思はれぬ。故に無形の心と有形の物質は現象には異れども其本因なる實體は物心不二の理體ならざるべからず。即ち宇宙を包否する所の普遍的概念は變化極りなき中に不變の理法存在し不變の本體より其の活動より隨縁して一切萬物を變現す、故にそが統一的存在は眞如と云ふ理體であると。眞如とは本物心不二の眞理の體なれども活動の主體なる故に心眞如と名づく、即ち物心不二の心である。

本質の實在は或は人間の意識の境を超絶したる不可知的のものである。人の意識に

現はれ来るものは自己の心を客體化して觀て居るので實在ではない。實在は不可知的であると主張する學者ありスペンサの如き之なり。

觀念的實在論者は謂く實在は觀念的のものにて可知的である。吾人の觀念と實在とは全く一體である。絶對なる同一觀念態を外に現はるれば客觀界即ち物質にして内觀すれば主觀界なので一體の兩面の現れに外ならぬと説くのである。

今は實在は吾人の直觀と同一本質にして不斷の活動も吾人の精神に比すべく、實在の本質は吾人の直觀と質が同一なることは深く眞如觀に入る人の證明する所、故に起信論に、眞如は言語道斷にて思慮も及ばざる所、然れども眞如觀にて證入するもののみ相應すとは是である。

### 歸 命

外キリストによれば世界すべての人類は其祖先が已に神に背き戒を破り元罪を造れり、其子孫は悉く祖先の原罪を生れながらに受けた。故に父なる神の坐せる樂園に歸ることをうべき資格を失へり。神は愛を深くして罪に亡びたる人類を救靈せんが爲に子キリストを世に降して人類を罪より救ふべき( )キリストを信じて之に(聖)らるゝものは復活して神の國に歸ることを得。

哲學にカントは神の國は實踐理性には即ち實行の結果としてはなかるべからず。然れども現在不完全なる世界より最幸福と最高徳との完全なる神の國に達せんには無限の時間を要せざるべからずと。

此を佛教の性相家に於て無上佛果は大願大行實行の結果として成就すべき三身四智依正二報莊嚴淨佛國土は三祇の劫に修行の後始めて達せらるべきものとす。

佛教に於ては實踐理性を淨佛國土を實踐理性よりは理智を重んじ一切衆生本來佛性を具有す、此心に三諦妙理を具して不可思議これを理即と云ひ、二、上の理を名字の中に通達し一切法皆佛法と了知す、現に觀行し十乘觀を修し兼行六度を觀行即と、四相似即、六根清淨、三界の見惑を斷じ、次に三界思惑を斷じ後三品に習氣及び界外塵沙を斷じ無明の惑を伏し是内凡位、五分位、即、十住十行十回向十地等覺四十一位の中に於て各一品無明を斷じ各一分中道の理を顯はす並に八相廣度衆生普門示現益衆生云分眞位、六、究竟即、等覺一轉して妙覺に入る、佛果圓滿斷證窮極、

華嚴別教一乘行位に二門。一、次第行布門、因果次第、進修證入の故に、二、圓融相攝門、因果融攝無碍即入故。行布を以ての故に經微塵劫、圓融を以ての故に一念速疾に佛果を證す。即ち三生成佛の階級を立つ。見聞位、解行位、證入位なり

佛教天台華嚴の如き學説としては最も能く發達したるものと云はん。然れどもカントが謂ゆる天國は認識の實在に非ずして、彼は感情的執意的實在として取りあつかふと。華天の如き、自己心性の珠を磨き來るときは本來是佛と、理性の満足をこゝに得られんも、感情及執意的宗教としては安心を他に求めざるべからず。

華天の如き自己心性開發の外に他に客體の恩寵を仰ぐことなし。密家に至つては此と異り、本尊に歸依信賴して三密の相應を求む。秘藏寶鑰に守護國經を引いて曰く、

爾時釋迦牟尼佛言秘密主、我於無量劫中、修集如是波羅密多、至最後身、六年苦行……どもいまだ菩提を得て大ビルンヤナと成ることを得ざりき道場に……無量化佛同聲告曰善男子云何求成正覺、我白佛言、我是凡夫未知求處、唯願慈悲爲我解說し給へ。是時佛同告我言、善男子諦聽當爲汝說汝、今宜應當於鼻端想月輪中作掩字觀、作此觀已於後夜分得成菩提、善男子、十方世界如恒沙諸佛、諸佛不於月輪作掩字觀得成佛者無有此處、何以故、掩字即是一切法門亦是八萬四千法門、寶炬開( )、掩字は即是ビルンヤナの眞身、掩字即是一切陀羅尼母、從此能生一切如來。

今日く通じて宗教は神に歸命信賴、神と融合致一を旨とせり。唯字は歸命信順なり如來に全身全幅を投じて全然融合相應を意味す。

宗教意識が心情意志及び智も完全に得んと欲せば華天の如く唯自己本覺の理を發見することを求むるのみにあらず、知的冷案落莫たるよりは、慈悲活力に富める大なる力に信賴せざれば温暖と熱中を造る能はず。大我と融和するの妙樂を感じ平和悅豫を求め全身全幅を投歸没入す。

附錄

四十七

欽復、實に浮沈常なき世の習ひ禍福轉變して止むこと無し。大經の下卷に娑婆憂苦の狀態を示さる如く、古今相變らざる世態にて候。中には正直に勤勉するも悲運に陥り不道徳にして益繁昌するもあり。若し宿世の因縁の起因を明めずば天道非乎の嘆免れざるべし。御書簡にて承れば現在の狀態に對しては何れとも同情に耐へざる所に候。物質上の失敗の窮極に達するも精神的に不思議の光明を以て救済の力を與へ給ふ大なるミオヤを仰ぐ時は必ず失敗即ち成功の階段と成り得べくと存じ候。

凭る場合こそ宗教最必要に候。孔子聖人が謂ゆる君子にして窮す、小人窮すれば濫す。縦令大人君子と雖窮するなき能はず。然れどもいかに窮すとも濫せざる所に君子の君子たる徳あり。倉成君よ實は人間は窮極のどん底に入つて始めて精神のどん底より湧き出づる一心の金剛石に比すべき眞價が現れ來るなり。窮極の底にまで至らざ

るものは實には人間の心底は顯れざるなり。西郷南州が薩摩海にて僧月照と入水したる如き、また岩崎彌之助(初代)彼が成功に曙光を見る迄には幾度か自殺を決したることありしと。

實に人間は窮極に陥入つて濫せざる所に人格の尊むべき價値を現はすべきである。失敗必しも悲むべきまた卑むべき運に非ず。又失敗の過程を経ずして成功したるものは精神的に墮落すること免れず。視給へ、今日の成金界が世間より非難の矢を射られつゝあることを。

曾て聞く香月炭坑の岩本君が昔し本國に在りて失敗し窮極に達し故郷を去りて非常な艱難をなめてつひに今日の位置を得たりしと。若し君にして其失敗なかりせば凭は人格は磨かれざりしならん。

天理教の信者の言を聞き給へ。人々親や祖先から受けた財は實は親や祖先が私欲から積み立てたる財産なれば神の思召に契はぬ。故に夫を抛ちて本のからになりて其れから神の思召の信仰から成立つた財産こそは眞實の財産であると。それは極端のやうなれども夫でも彼等は安んじて毫も濫せずして生活して居る。

尙視給へ。今日は世界を通じて民衆主義が盛に唱導されて居る。彼等は世は財産も平均にして各々勞働して衣食せよと。

凭る今日なれば凭は悲觀し給ふ勿れ。さうして大御親に對して祈ることも大なる御親は天地萬物として一日も休むことなく今日は今日として働きて衣食すべき様に爲されつゝあり候。

故に大ミオヤは正直に能く働けよと云ふ思召である故強て祈らずとも 大ミオヤいからでも無限に與へ給ふが故に正直に働く所に大ミオヤの力は加り給ふなり。

キリスト教などでは何れの教會にても正直に働けよ是神の思召であるとの教が普く行はれあると聞く。全體正直に業の爲に働く外に特別の恩恵を被りて少く働きて多く利益のあるやうにと云ふことは一般の模範とは成り申さず候。尤も物は運り合はせ

に依つて自分にも他人にも利益のあるやうな廻り合はせに成ることも有之候。されども只 天の御親様の聖意にかなふ様に偏に祈り申せば必ず御加護を被り申べく候

大ミオヤに加護を仰ぐ祈り

宇宙の主に在ます大ミオヤよ。我輩は意固くしてミオヤの聖意に合はざる意を以て自ら業務の失敗を招きたりき。今より悔ひ改めて聖意に契ふべき意となりて今日の業務をつとめんことを祈り奉る。願くば大慈悲の加被力を以て世の爲に爲るつとめを得らるるやうに恩寵をたれ給へ

尙種々申進度事多く存候へども後便に譲り候 和南

### 四十八

肅白

來二日より赤穂町安樂寺にて五重會につき出張候。續きて九日より貴地に出向候。御約束を曾て宮澤上人といたし候。

俗世の人々に宇宙に一の大ミオヤの實在を御知らせ申し、其光明の中に生活すべく御すゝめのために小誌刊行候。二三號御送附候若御志あらば發行所に御通知を請ふ。

御書翰拜見仕候。承はれば此回村上先生等の御出演にて心靈の開拓に功果奏せられし由、一は斯道の爲に、一は有志衆の爲に祝し申上候。實に人生若し永遠の生命に入るべき光明を發見せざれば、只動物的生を以て永夜の間を彷徨するの止なきに到る。人生の恨事は過ぎず候。承はれば廣島より御令妹しめ代さま試験の休みに御歸省のよし、昨年御別れ申してより半年になん／＼とす。御面晤を樂しくおもひ候。

當地八日に濟まして實は當寺にても五重會中は青年に傳道も出來ざる故に、後二三日青年の爲に傳道して吳との事なれども、兼て玄向寺宮澤上人の御約束なれば九月

には玄向寺様に向き出發すべく依て當寺にては七日の内三夜位夜分に青年に傳道するやうにいたし度く申候。

九日御地に着候時間決定次第御通知仕候 先者當要如斯御座候 頓首

### 四十九

聖意にきよめられしきよき吾同胞 井上尊宿よ 新らしき光明のなかにいや光榮あらんことを祈る 此頃會て先師故上人の冥福に資する處の、

光明名號經の印刷し給ふ物を惠與せられたり。寔に斯聖典の真理を世に紹介せらるゝは我淨土教の眞源を照すの光明たり。まことに壽經に明す處の法藏比丘は只人間の修行の結果として現はれたる 十劫正覺の大光明者に非ずして、

永劫本然の大光明を聞世の衆生に示さん爲に現はれたるロゴス大靈の權化なり。極樂て本國は法藏大士が或偉大なる如來より借し地にあらざして木よ 宇宙全部の大地主が假に法藏の名を以て衆生を靈界に攝取する處の大巧方便者なり。 誠此の靈文は報應彌陀の本源を照し給ふ光明なり。 本門の彌陀と迹門の彌陀とを

まだ識らずして申有にさまよふ亡者を救ふ處の金文なり。

尊宿よ若し願與すべき餘裕あらば二三百部の御寄與を希候。

今暫 旅行にあり本月半旬に歸京 候間 淺草田島町誓願寺に宛御送附せられんことを希候。 時向寒なり願くば光明名號のうちに御身體の御自愛是祈候。 處々巡り居り延引ながら御禮かたぐ御願まで

和南

### 佛說無量壽佛名號利益大事因緣經

曹魏天竺三藏康僧鑠譯

我聞如是。一時佛在王舍城耆闍崛山中。與大比丘衆千二百五十人。俱詣滿已羅神通明。諸衆其名曰。尊者阿難尊者目連尊者舍利弗尊者大牛王尊者摩訶迦葉尊者摩訶伽耶迦葉尊者大周那尊者名聞迦葉尊者大淨心志等。皆如斯等。以爲上首。又普賢菩薩文殊師利菩薩信淨慧菩薩解脫菩薩等。諸大正士。滿足無量願行。安住不可思議功德之法。智慧聖明。如是等之諸菩薩衆。不可稱計。即時來會。爾時世尊告阿難曰。乃往過去久遠無量無央數劫。有一大比丘。名曰法藏。值遇無數百千佛。滿足無量願。超過諸佛所行之法。彼法藏比丘今已成正覺。現在西方淨安樂佛國。號曰不可思議光無量壽。如來。其佛本願力。故以不可思議威神力。徧滿十方世界。以大音聲。宣布名號功德。是故十方世界。一切有情。聞信其名號功德。即時入正定位。生淨安樂佛國。是故有情之類。縱令在人中。以宿報。故或墮盲暗啞。痴狂。惡以。其佛光明名號。因緣。皆得解脫。或在三途勤苦之中。受苦無間。以其佛光明名號。因緣。皆蒙解脫。聞其光明名號。若信受者。稱名。即時除無量無數劫生死之罪。是故阿難稱彼佛號。若一聲。若十聲。乃至百千聲。於念念中。在無數化無量壽佛。常護其人。又有二菩薩。一名觀世音。一名大勢至。是二菩薩。口爲上首。俱諸大菩薩衆。常來護其人。壽終之後。生彼淨安樂國。是故阿難設有猛火。充滿三千大千世界。必當過至。聞信彼佛名號。是人號火中生蓮華。是名不可思議名號利益一大事因緣。其佛本願力。故十方諸佛。皆讚譽。彼佛名號功德。又稱讚佛有情之類。汝等皆當信受彼佛名號。

世尊告阿難曰。如來所出於世間。說此不可思議。其功德。光明名號利益大事因緣。是故我說。難值難得。難聞。若有衆生。有聞此法。者皆應信順。如法修行。

世尊告阿難曰。彼法藏比丘。爲度十方世界。一切有情。雖起超世願。修無量大行。是本久遠。實成。本有法身。常住。無量壽。以不可思議威神力。故徧滿十方世界。爲教化安立。數有情。住於無上眞實之道。或爲刹利國王。轉輪王。或爲長者。居家尊性。豪貴。或爲六欲梵天王等。或爲地獄餓鬼。畜生。修羅身。常以四威儀。化作一切。阿難。彼久遠。實成。法身。常住。無量壽。佛者。豈異人耶。今日世尊。我身是也。感汝等一切有情。無明大夜。闇。故從彼安養。無爲界。示此惡時。惡世界中。迦耶王舍等。說此佛名號。不可思議功德。因緣。是謂難值難見。難得難聞。是故若有有情。聞此經。二者皆應信受。如法修行。



世尊告阿難曰縱令一切有情煩惱惡業深障重報彼佛光明名號神力無所障礙是故彼佛號無得無對  
 清淨智慧歡喜等智慧無礙故神力亦無礙故大慈悲亦無礙是故彼佛號一切有情若以有礙小  
 智有礙於佛無礙智不可思議智不可稱量智大乘勝智無等倫最上智疑惑不信以疑惑故無數劫  
 中墮會婆羅獄或入頻陀羅獄受苦無窮無有出期是故若有有情正信佛智若即時入正定  
 位不退轉阿耨多羅三藐三菩提是名不可思議功德名號利益大事因緣佛說此經應時普大地六  
 種震動大雨三妙華自然空中有微妙大音聲讚頌彼不可思議光無量壽清淨佛號及今日世尊說大事利  
 益因緣世尊說此經時無量有情發無上正真道意諸天人民得阿那含果諸大菩薩以四弘誓莊嚴功  
 德於將來世應成正覺佛說此經已諸大菩薩衆阿難等諸大聲聞弟子衆即佛所說歡喜禮佛而  
 去

佛說無量壽佛名號利益大事因緣經

楞伽經云十方佛刹中衆生菩薩等所有法報應身及變化身皆從無量壽極樂界中出

往生論註云諸佛菩薩有二種法身一者法性法身二者方便法身由法性法身生方便法身由方便  
 法身亦出法性法身此二種法身異而不可分一而不可同是故廣略相入統以法名菩薩若不  
 廣略相入一則不能自利利他

岡公云極樂是無爲泥洹境諸佛法王家也彌陀亦無量三昧宰三世法門主十方三世體用皆彌陀  
 也

五十

拜啓、入梅中鬱陶敷候處草庵の御世話人衆無事候條賀上候、拙僧儀去月参り  
 候節御世話人衆の中に、平方新田、酒井殿の東京を巡行の事で兼て申上候、本所菊川  
 町二丁目、鈴木富藏様と申す方は、兼て平方新田より、深き縁故の有る方にして、本  
 世話人と相成度々御心配致し下され候處、巡回の御宿も多分に出来、諸方より米粒  
 其他書物請求する者甚だ多く、大抵寸暇も無き程に信者衆も種々盡力し、小子も歡喜  
 に罷在候處、本月四五日頃より邪氣を相受くれども、藥川致しながら二三日相勤候  
 へ共、終に堪へ難きに至り、之に當り、世話人鈴木富藏氏にて悉く御痛はり醫藥療養  
 致居候。療治も一週間も経ざるに大に功を奏し、唯今は餘程快方に候。病氣全快  
 第、巡行も勤候つもり。先日より御報知致し度存候へ共、苦痛のため筆紙自由を  
 得ず、今日は快よきまゝ一書を進め御報まで。(明治二十一年)

石鈴木富藏様には、當所へ参りて爾來悉く御心配賜り、是より追々東京の方でも益々  
 々盛大なる様子なれば、御暇おしくも候へ共御出頭被下候様奉願候也。

五十一

(以下明治二十一年頃より東京深川鈴木家)

日々々に幾度ならぬ思出に、うとくも筆にしめし候。  
 先日は葛西より、行徳あたりを巡り候處、一度参上致したく存候へどもまゝなら  
 ず、毎日ひまもなく、すこしくも、ざるのすきめをとふすほどの間もあらばこそ、せ  
 めて利根の水にながれてなりともあがり度、日々々々おもひ居候へ共、止を得ずつひ  
 に、今日は八わたに参り候。是より度び々船橋邊より、いづれに相成候哉。我身鐵  
 にはあらねども、じじやくにひかれて、ゆく末の北ある計りと定められず。さるほど  
 に、このあひだより、別紙書したゝめしものも差出す事もできず、そのふみもなまい  
 きに書いたのでは有ませぬが、只おもふ事を筆にまかせてしたゝめしなれば、御よみ

にくくも御ゆるし下され。皆々様いかゞであらうと案じぬ日も有ませぬ、それゆゑ、そのうち、せひくあがりたく存じ候。まゝならぬしやはのならひ、しかしながら、わたくし、身のこと、今御かげさまにて、たつしやで居り候ゆゑ、御安心下され度候。

随分じゆばんなんどもあかづきました、これもあかばんぶなれば、相應して居るかもわかりませぬ。毎日々々、随分勉強して書て居升。ほんに昨年の今ごろは、諸方まはりし時分、東京の菊川町といふことは、町名だにも存じませぬのでしたが、とういふもので有りましょう、當年はかくなん、皆様の御やうす何とぞきかまほしくおもひしも、いたゞく御文宛がなく、こまりまして候。佐原、銚子の方へ、行くやうにひくものが有ますけれども、いかゞいたしてよろしからうと存じ、東海のはては、あぶないもの、されども、夫よりひがしの方へは行處なしときいて、安心いたし候。たわけものゝたわけ書とおぼしめすかは存じませぬが、元よりたわけものゝたわけ書がまことで有ましよう。御ごとのかうむらぬうちにまたたわきたいひわけをいたしておきます。

五十二

時しもいたふ寒さのあかつき、氷りはる硯の水をとかし、水くきのさきをせめし、しるし述はべる。御さむさのきびしい折、皆々様、御きげんよう御座遊ばされ候御事、よろこばしく、なぐめならず賀ひ申上候。小子事、先ごろまかりはべり候節は、よろづの事どもあつく御心をくばらせられ御めぐみのほど、千々に述、百々に御禮まうしつくしがたく、御蔭にて、此の寒さをこととせせず、わたりはんべる有がたさ、おもひにあゆるゝばかり、身のこととはやはり、しばしものとまゐることなく、四方にはせ、おちこちにおくりはべるなり。御目もじは遠からぬことゝ、たのしみはんべるなり。たゞくひとへにねがふ心は、皆々様御寒く御いとひなされて、御身の御すこやかにわたらせられ給へかしと許り。なほ申し上たき事は山々なれど、御目もじにゆづ

り、ゆるゆる申し上ぐべく候。穴賢。

五十三

先日は御地を出て江村西光寺にて彌陀尊像を書寫し其翌日鎌田村安養寺にて二夜御急を勤め、行徳にて一夜、二十八日歸るや否や早速鷺野谷に参り、昨日今日は寺號願出のしらべに取掛り、二三日の内には葛西へ出向つものに候。

五十四

拜啓、時下春和の氣候に相成候處、皆々様御機嫌克被爲在御座候條奉賀上候。于次、小子無異に布教罷在候間、御安心可被下候。去月出立の後、日々餘暇なく、一輪呈すべくも終に怠り、只今より群馬栃木邊迄暫く廻行するつもりに候。御經の佛像楯氏より已に贈られたるか如何と存候へども、若し到着相成候はゞ、御地にてけち縁の爲め川ひたく候へども、餘間なきま、皆様へ宜敷御傳聲下され度願上候。

(明治二十二年)

五十五

一月三秋思別袖已來屈指數日殆三十日身在北總行德驛心通菊川町日幾回每見美通達機船客每聞起慈機笛音思念憶想之故哉昨夜睡中夢予身乘氣船從行德岸忽達扇橋邊上從船步行到貞家謁舉君安康美貌我心快然聞語憲法發布式祝日景況萬旗萬燈未曾有盛市街殷闊亦堪驚予何不來此小僧拂咳曰小子該日葛西里聞祝砲音翌日在行德德願寺衆僧集會小子於中謹開憲法帖從告文乃至七章七十餘條文相讀相解爲衆人等末終語結夢消愕然覺睡見身在佛前細燈欲消色些々是思何家行德河原村蒸氣船長家餘感忘情溢胸淚潏然喟然歎感而清耳聞時計鐘五味然亦眠地大震動驚曉天皎々聞啼鳥聲

およみにくく有ましようが本文はいつかわたくしがよみますからかたはらのかなは

かりをおよみ可被下候、相違て居る所はありましようがよいよいやうにおよみ下され。(明治二十二年)

### 五十六

弟子こと身まかりし師の遺せし志をはたさむためにおちこちめぐりてもろ人に法の縁を結んため修行せしに、はじめて府内に入しに、すゞき家にてあつくもろくのことどもに意を配せられ、日をかさね深くも御恩のほどこれまでなるはおぼろげなる縁には有まじ。定めてすぎに世よりいかなる契あれとこそおもひつゝ、いにしへにいかなる契り有てかはかく深かりしむつびぬるかなしかるあひだ久しく病に臥ぬるにいたく御恵みのほどいかばかりにかおもひおもふほどことばにも述がたく、きもにしみほねにもとほし思ふなりいかでわすれん君が恵みをいかばかり身になやましき病より心にしみる恵なりけり

冬夜衣薄寒氣徹肌

恩恵衣厚感情徹肝

おめぐみのあつきころものあらなくば

いかにわたらむ冬の月日を

草も木もみなこがらしの野にしあれど

たゞ風のこゑならし野の原

### 五十六……満恵童子訪書唱歌

はるのなかばもすぎぬるに、庭の梅が香にほひぬる、夜のあらしのはげしきに、ちりぬる身こそいとほしや。たらちをとめの朝夕に、なでてそだてしめぐみをば、ひろきわだつみかぎりなく、しづみぬる身のいとつらき。あさゆふとなふみなのこゑ、かねのひゞきにゆめさめて、みやこの花や九重に、ひらくためとてつとめしぞ。む上せそのの御身さへ、ねはんの雲にかくれしぞ、しまわうごんの御はだへも、せんだのけむりとなり給ふ。

むかし泉式部女小式部に先だたれしとき

ゆめのよにあだにはかなき世をしれと

敬へてかへる子は佛なり

昭和七年七月十三日	印刷	誌代郵税共
昭和七年七月十五日	發行	年二四
編輯人	山崎 辨成	
發行所	小石川區關口町六十五番地	
印刷人	小林 七太郎	
印刷所	小石川區關口町六十五番地	
印刷所	靜文社印刷所	
	電話牛込五四一九番	
	東京市小石川區水道橋二丁目四十四番地	
ミオヤのひかり社		
振替口座東京六八五一番		